

修士論文(要旨)

2014年7月

在日ベトナム人留学生のオノマトペ学習に対する意識・ニーズの調査  
—オノマトペ学習動画の開発にむけて—

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

212J3902

グエン フック ミン トウイン

## 目次

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| <b>第1章 研究の背景と目的</b> .....            | 1  |
| 1.1 研究の背景.....                       | 1  |
| 1.2 オノマトペとは.....                     | 2  |
| 1.3 実際使用例から見たオノマトペの意義.....           | 5  |
| 1.3.1 日常生活におけるオノマトペ.....             | 5  |
| 1.3.2 コミュニケーションにおけるオノマトペ.....        | 7  |
| 1.4 研究の目的と意義.....                    | 8  |
| <b>第2章 日本語教育におけるオノマトペの先行研究</b> ..... | 9  |
| 2.1 オノマトペ教育に関する理論的研究.....            | 9  |
| 2.2 オノマトペ教育に関する実践上の研究.....           | 10 |
| <b>第3章 調査概要</b> .....                | 18 |
| 3.1 調査目的.....                        | 18 |
| 3.2 調査協力者と調査方法.....                  | 18 |
| 3.3 調査背景.....                        | 18 |
| 3.4 分析方法.....                        | 20 |
| 3.5 質問紙の構成.....                      | 20 |
| <b>第4章 調査結果と分析・考察</b> .....          | 22 |
| 4.1 オノマトペに対する意識.....                 | 22 |
| 4.2 オノマトペの学習に対する意欲.....              | 29 |
| 4.3 オノマトペの学習用教材.....                 | 32 |
| 4.4 オノマトペに関する意見.....                 | 39 |
| <b>第5章 オノマトペ学習用既存動画の比較分析</b> .....   | 46 |
| 5.1 オノマトペ学習の既存動画の紹介.....             | 46 |
| 5.2 比較分析.....                        | 48 |
| 5.3 まとめ.....                         | 51 |
| <b>第6章 オノマトペ学習動画の開発への提案</b> .....    | 53 |
| 6.1 動画開発の意義.....                     | 53 |
| 6.2 動画開発計画の概要.....                   | 54 |
| 6.3 オノマトペ学習動画の一例.....                | 55 |
| 6.3.1 オノマトペの選出.....                  | 55 |
| 6.3.2 動画の流れの一例.....                  | 56 |
| 6.4 まとめと今後の課題.....                   | 63 |
| 謝辞.....                              | 66 |
| 参考文献・参考URL.....                      | a  |
| 巻末資料1「日本語訳の調査用紙」.....                | I  |
| 巻末資料2「ベトナム語の調査用紙」.....               | VI |

## 要旨

日本語のオノマトペは数多いが、就職・日本語能力試験などの実用的な面で役立たないと考えられており、指導・学習に際して軽視されることが多い。意味を理解しただけでありあまり使わないオノマトペは忘れやすい。また、留学生が来日してから出会ったオノマトペは辞書で調べないと意味が分からず、しかも辞書の解説や用例が難しいため、想像しにくい。このような稿者自身の苦い経験が、オノマトペ学習の改善方法の提案という本研究を志したきっかけである。

本研究では、在日ベトナム人留学生のオノマトペ学習に対する意識、ニーズについての調査を行った上で、学習者のニーズに応える動画開発への提案を目的とする。本研究の意義は以下の2点である。第一に、「言語能力の育成および言語達成感を遂げるには筆記試験の点数を上げるより学習言語を使う自然なコミュニケーションの育成が重要である」と、学習者に考え直させること、第二に、オノマトペを学ぶための動画開発の提案を通して、本研究は視聴覚メディア教材のメリットを改めて明らかにし、同時に、オノマトペのように特徴的な語群の教育への示唆を与えることである。

日本語教育におけるオノマトペの先行研究では、秋元(2007)が、オノマトペ学習に対する日本語教師の考え方を、「初級レベルから基本的なオノマトペを導入していく」立場と、「オノマトペを学習させる必要はない」立場に分けているが、稿者は前者の立場に立ち論じる。まず理論的な研究として張(1989)と坪根他(2001)のように中国人・韓国人学習者の意識についての研究や、三上(2007)の教師と学習者のオノマトペに対する認識についての研究が挙げられる。さらに、三上(2007)、彭飛(2007)は外国人学習者向けの有効なオノマトペの指導・学習方法を提案している。次に、実践上の研究として月刊日本語(2007)の「擬声語・擬態語カルタ」、国立国語研究所(2007)の「擬音語・擬態語を楽しもう」というサイト、藤野他(2005)の「スポーツオノマトペ電子辞典」を選び、本研究の目的と絡めて考察した。

調査協力者は全員在日ベトナム人留学生で、所属は大学院、大学、専門学校が各9名、日本語学校の上級・中級・初級者が各9名で、合計54名であった。調査方法は、アンケート調査である。オノマトペに対する意識、学習に対する意欲、動画に対する期待などについて調査し、自由記述欄では協力者の生の声を集めた。

調査結果は以下の通りである。1)オノマトペに対する理解度と日本語レベルには関連がある。2)初級学習者はオノマトペを無意識に学習し、意味の把握があいまいである。3)中上級段階では多種多様なオノマトペを覚え使うようになる。4)教科書で出現頻度の低いオノマトペは知らないことが多い。5)新規オノマトペに出会う場面は限定的である。6)よく使用する学習用教材は「辞書・電子辞書」、「主に解釈と練習問題がある教科書・本」、「意味を主にイラストで説明する教科書・本」である。7)「辞書・電子辞書」は最も使用されているが、学習効果は最も低い評価であった。8)効果があると評価された教材は「アニメ・マンガ」、「主に解釈と練習問題がある教科書」であった。9)本研究で提案する視聴覚教材の「自作動画」は予想より評価が低い。10)調査協力者54名中、オノマトペ学習用の動画を見たことがあるものは4名のみであった。11)動画開発への期待として、「用法の説明・例がある」「日本語の字幕がある」「実際によく出会う場面を設定する」「自然な話すスピード」「日本の日常生活の風景を映す」「登場人物はみな日本人である」が挙げられた。12)70%の学習者はオノマトペの学習は難しいと訴えたが、98%の回答者はオノマトペを学びたいと答えた。

第 5 章ではオノマトペを学ぶ既存動画を 3 件取り上げ、概要と特徴を比較・考察する。既存動画の選択理由は「動画がシリーズとして連続し、ストーリー性があり、学習の継続意欲を促すこと」と「学習目的の達成のために周到に準備されていること」という 2 点であった。3 件の動画の長所を参考にしつつ、同時に問題点の克服法を考慮し、本研究の動画作成への提案に生かすことにした。

上述の考察結果に基づき、オノマトペ学習のための動画開発に向けて、次の 4 点を提案したい。1) 学習者に日常場面で多用されるオノマトペに気づかせ、興味を持たせ、語感を養い、適切に使用できるようにすること(気づきを促し、メタ認知ストラテジー[以下、ST]を活性化)。2) 日常生活で遭遇するオノマトペの理解を促進し、在日ベトナム人留学生が留学生活を楽しめ、日本語スピーチ・コミュニティに主体的に参加できるようにすること(情意 ST、社会的 ST の積極的運用)。3) 日本語学校において従来のオノマトペ教材と併用されることで、教材の長所を強め、短所を補完することができること(メタ認知 ST、補償 ST の積極的運用)。4) 動画には日本での実際の映像や日常的な談話を取り入れ、ベトナム在住の日本語学習者に留学生活についての具体的なイメージを与えられること(社会的 ST の積極的運用を促進)。上記をふまえて開発した動画を具体例として示した。

本研究は調査結果に基づいた動画開発の提案に留まった点が限界と言える。今後は「動画作成を実施すること」および「視聴者のフィードバックを得た上で、改善方法を検討すること」を課題としたい。

## 【参考文献・参考 URL】

- 秋元美晴(2007)「日本語教育におけるオノマトペの位置づけ」『日本語学 特集 オノマトペと日本語教育』第 26 巻, pp. 24-33
- 有賀千佳子(2007)「オノマトペを通して、語彙の学習・教育について考える」『日本語学 特集 オノマトペと日本語教育』第 26 巻, pp. 65-73
- 阿久津智 (2000)『絵でわかるぎおんご・ぎたいご:日本語の表現力が身につくハンドブック』アルク
- 岡谷英夫(2013)「小・中学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」桜美林大学大学院修士論文
- 小野正弘(編)(2007)『日本語オノマトペ辞典』小学館
- 河野桐子・野口仁美・馬原亜矢 (2010)『中上級レベル日本語教材 語彙力ぐんぐん 1 日 10 分』スリーエーネットワーク
- 坂本彩希絵 (2012)「オノマトペと言語の起源」『長崎外大論叢』第 16 号, pp. 227-236  
首都大学東京「mic-J 日本教育 AV リソース」  
<http://nihongo.hum.tmu.ac.jp/mic-j/gitaigo/index.html> (2014 年 7 月 2 日)
- 玉村文郎(1989)「日本語の音象徴語の特徴とその教育」『日本語教育』第 68 号 日本語教育学会
- 彭飛(2007)「ノンネイティブから見た日本語のオノマトペの特徴」『日本語学 特集 オノマトペと日本語教育』第 26 巻, pp. 48-56
- 張麗群(1989)「学習者から見た日本語の擬音語と擬態語」『日本語教育』第 168 号, pp. 128-130
- ツイガルニツカヤ レナ (2007)「日本語オノマトペに対するピリーフ:日本語教師と学習者の比較」『筑波応用言語学研究』第 14 巻, pp. 129-137
- 辻義人(2008)「視聴覚メディア教材を用いた教育活動の展望 -教材の運営・管理と著作権-」『小樽商科大学人文研究』第 115 号, pp. 175-194
- 内藤みち (2011)「日本語学習におけるオノマトペ」『聖学院大学論叢』第 26 巻, 第 1 号, pp. 201-211
- 西村由美・竹内和広(2011)「目的別日本語教育におけるオノマトペ表現の重要性」『言語処理学会第 17 回年次大会 発表論文集』, pp. 1011-1014
- 三上京子(2007)「第 4 章 日本語オノマトペの教育に向けて」『日本語オノマトペとその教育:早稲田大学博士学位申請論文』, pp. 165-223
- 三上京子(2007)「第 6 章 基本オノマトペのリソース化」『日本語オノマトペとその教育:早稲田大学博士学位申請論文』, pp. 261-408
- 無料動画 GyaO(2011)「お笑い:チャドマレーンのオノマトペショー」  
<http://gyao.yahoo.co.jp/player/00309/v09904/v0987100000000544212/>  
(2014 年 7 月 2 日)
- 山口仲美(2003)『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』大修館書店
- Youtube(2011)「Japanese Onomatopoeia」  
<http://www.youtube.com/watch?v=uV4988Egoj4> (2014 年 7 月 2 日)